

悲願 企業チーム打倒

王座への道筋 ④

第43回社会人野球日本選手権

5度目の挑戦で、悲願の初勝利を目指す。和歌山箕島球友会のエース寺岡大輝は「クラブチームは企業チームには勝てないという先入観を持たれている。全国の代表として、企業チームに勝ってクラブチームの評価を上げたい」と、強い意気込みを口にしている。



全日本クラブ選手権で優勝し、西川監督を胴上げする和歌山箕島球友会の選手たち—長谷川直亮撮影

和歌山箕島球友会 (近畿・和歌山)

もに全日本クラブ選手権の優勝チームに出場

権が与えられるようになった。和歌山箕島球友会は同年のクラブ選手権で初優勝し、「クラブ日本一」として日本選手権に臨んだ最初のチームだ。10年からはクラブ選

手権予選と日本選手権予選は原則として重複出場できないことになり、クラブ選手権を京セラドームへの道筋に位置付ける流れが強まった。西川忠宏監督は「(日本選手権予選で)企業チームに2、3回勝つのは大変。それよりも同じクラブチームに四つ勝つ方が可能性は高い」と言い、主将の林尚希も「クラブ選手権で優勝したという自信を持って日本選手権に臨める」。同様の意識は他のチームにも広がっている。

だが、練習環境などでハンディのあるクラブチームが日本選手権で企業チームに勝つのは容易でない。06年から昨年までの10大会で、クラブ選手権を制して推薦出場したチームはすべて初戦敗退。和歌山箕島球友会も日本選手権の予選を勝ち抜いた07年を含め、出場4度で白星はつかめていない。それでも悔しい経験を重ねることで、「以前は出ることが目標だったクラブ選手権で優勝を目指すようになり、その先の日本選手権での初勝利が目標になっている」と西川監督は話す。

選手の間には地元のスーパーマーケット「松源」で正社員として週5日働く。精肉や青果売り場を担当する選手は、午前4時に出勤することもある。林は「仕事も野球も100%でやっている。だからこそ、企業チームに負けたくない気持ちも強い」。初勝利とクラブの意地をかけ、明治安田生命との開幕試合に臨む。【長田舞子】

川つづく